



2026 年 10 月 28 日

各 位

会 社 名      Hm c o mm株式会社  
代表者名      代表取締役社長 CEO   三本   幸司  
                    (コード：265A、東証グロース市場)  
問合せ先      取締役常務執行役員 CFO   土屋   学  
                    (TEL. 03-6550-9830)

**(開示事項の経過) ドライブバイ方式によるインフラ監視の実現に向けた  
株式会社 Braveridge との技術連携について**

Hm c o mm株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下、「当社」）は、現在、上水道・下水道をはじめとする社会インフラの効率的な監視の実現に向け、走行車両から無線通信によりセンサーデータを収集する「ドライブバイ方式」の技術開発を進めております。

当社は、2026 年 9 月 16 日付で公表いたしました「ドライブバイ方式を活用した社会インフラ監視技術に関する特許出願及び今後の事業展開について」に関し、このたび、マンホール等の金属環境における複数のアンテナ設置方式・通信構成について検証した結果、株式会社 Braveridge（以下「Braveridge」）が開発する金属面設置対応の 2.4GHz 超薄型アンテナを、今後のドライブバイ方式における基本構成として採用し、同社と連携して通信方式の高度化及び実フィールドでの技術実証を進めることを決定しましたので、お知らせいたします。

同アンテナは、金属面への設置を想定した超薄型構造を特徴としており、マンホール等の金属環境における IoT 通信への活用が期待されています。

**1. 本件の背景**

当社はこれまで、滋賀県守山市における上水道分野の実証を通じ、水道管情報、地理空間情報、修繕履歴等を活用した広域的な漏水リスク分析と、当社独自の AI 異常検知ソリューション「FAST-D」による漏水音判定を組み合わせ、漏水リスクの高い地点を絞り込み、現地調査につなげる手法の検証を進めてまいりました。

また、広島県福山市においては、上水道分野で培った AI・データ解析技術を下水道分野へ展開し、既存データやセンサーデータを活用した腐食リスクの可視化及び重点点検・予防保全に向けた実証を進める予定です。

こうした社会インフラの継続的な監視を実現するためには、現場に設置されたセンサーから取得したデータを、低コストかつ効率的に収集する通信方式の確立が重要となります。

当社では、その手段の一つとして、車両が対象設備付近を走行する際に Bluetooth Low Energy (BLE) 等の無線通信を利用してセンサーデータを取得する「ドライブバイ方式」の開発を進めております。

これまでの技術検証を通じ、アンテナの設置位置や角度、金属との接触状態、マンホール蓋の構造等が通信性能に影響することを確認しており、これらの検証結果を踏まえ、Braveridge 製 2.4GHz 超薄型アンテナを基本構成として採用することといたしました。

**2. Braveridge との技術連携について**

当社は今後、Braveridge と連携し、同アンテナを活用したドライブバイ方式の通信性能向上及び実用化に向けた技術検証を進めてまいります。

主な検証内容として、マンホール等におけるアンテナ設置条件の最適化、車両走行時における通信距離・接続時間・通信安定性、限られた通信時間内での効率的なデータ取得方法等を想定しております。

また、実フィールドでの検証を通じ、上水道における漏水監視に加え、下水道における各種センサーデータの収集についても適用可能性を確認してまいります。

Braveridge 製 2.4GHz 超薄型アンテナの詳細については、同社の発表をご参照ください。

<https://www.braveridge.com/news/archives/111>

### 3. 今後の展開

当社は、本技術を上水道・下水道双方に適用可能なインフラ監視技術として高度化し、走行車両によるドライブバイ通信とクラウド上での AI 解析を組み合わせることで、社会インフラの状態を効率的かつ継続的に把握し、異常の早期発見や予防保全につなげる仕組みの実現を目指してまいります。

今後は、複数の実フィールドにおける技術実証を進め、ドライブバイ方式の実用化及び上水道・下水道をはじめとする社会インフラ分野への展開を推進してまいります。

### 4. 今後の見通し

本件が 2026 年 12 月期の当社連結業績に与える影響は、現時点では軽微であると考えております。今後、業績に重要な影響を与えることが判明した場合は、速やかにお知らせいたします。

以 上

## Press Release

報道関係各位



2026 年 10 月 28 日  
H m c o m m株式会社

H m c o m m、ドライブバイ方式によるインフラ監視の実現に向け Braveridge と技術連携

— Braveridge 製薄型アンテナを基本構成として採用し、実フィールドでの技術検証へ —

H m c o m m株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下、「当社」）は、上水道・下水道をはじめとする社会インフラの効率的な監視の実現に向け、走行車両から無線通信によりセンサーデータを収集する「ドライブバイ方式」の技術開発を進めています。

このたび当社は、マンホール等の金属環境における通信方式について技術検討を進めた結果、株式会社 Braveridge（本社：福岡県福岡市西区、代表取締役社長：小橋 泰成、以下「Braveridge」）が開発する金属面設置対応の「2.4GHz 超薄型アンテナ」を、今後のドライブバイ方式における基本構成として採用し、同社と連携して通信方式の高度化および実フィールドでの技術検証を進めることとしました。

同アンテナは、厚さ 1mm の超薄型構造で、金属面に設置した状態での利用を想定して開発されており、マンホール蓋への設置例も公開されています。

当社は今後、同社の無線通信・アンテナ技術と、当社が開発を進めるドライブバイ方式を組み合わせ、実際のインフラ環境における通信性能やデータ取得条件を検証し、社会インフラ監視の効率化・省人化につながる技術の実用化を目指します。

### ■背景

社会インフラの維持管理では、設備の状態を継続的に把握し、異常の兆候を早期に捉えることが重要です。一方、広範囲に存在する設備を人が巡回してデータを回収する方法には、人的負担やコストの課題があります。

当社は、滋賀県守山市における上水道分野の実証を通じ、広域的な漏水リスク分析と、当社独自の AI 異常検知ソリューション「FAST-D」による漏水音判定を組み合わせ、漏水リスクの高い地点を絞り込み、現地調査につなげる取り組みを進めてきました。

2026 年 10 月 15 日に開催された守山市実証事業の中間報告会では、これまでの漏水検知の成果や、ドライブバイ方式に向けた通信検証の結果、今後の実証計画について報告しました。

中間報告会の詳細は、守山市公式 note をご参照ください。

守山市公式 note：【2026 年度 up stream lab.】中間報告会を実施しました

URL：[https://note.com/moriyama\\_city/n/n22f3d5ddb3b8](https://note.com/moriyama_city/n/n22f3d5ddb3b8)

また、広島県福山市では、既存データや各種センサーデータを活用し、下水道管路の腐食リスクを AI で推定・可視化する実証を進める予定です。

こうした取り組みを継続的なインフラ監視へ発展させるためには、現場のセンサーデータを効率的かつ継続的に収集する仕組みが必要となります。

#### ■ドライブバイ方式によるデータ収集

当社が開発を進める「ドライブバイ方式」は、車両が対象設備付近を走行する際に、Bluetooth Low Energy (BLE) 等の無線通信を利用してセンサーデータを取得する方式です。

車両の走行機会を活用することで、設備ごとの常時通信回線を必要とせず、通信コストや現地作業負担を抑えながら、広範囲のインフラ設備を効率的に監視することを目指しています。

取得したデータはクラウド上で AI 解析し、異常の可能性が高い地点を抽出することで、重点的な現地確認につなげることを想定しています。

なお、当社は本方式に関する技術について特許を出願しています。

#### ■Braveridge 製「2.4GHz 超薄型アンテナ」の採用

マンホール等のインフラ設備では、金属による電波への影響やアンテナの設置位置が、安定した無線通信を実現する上で重要となります。当社の社内検証では、鉄蓋を用いた模擬環境において、アンテナを蓋上に設置する方式が有望であることを確認しました。

Braveridge が開発した「2.4GHz 超薄型アンテナ」は、金属面への設置を想定して開発されたアンテナです。

同アンテナは厚さ約 1mm の超薄型構造で、金属面に設置した状態でも無線特性を確保することを特徴としており、Bluetooth LE および Bluetooth LE Long Range を用いた通信性能についても同社から公表されています。また、マンホール蓋への設置例や断面構造も公開されており、金属製インフラ設備の IoT 化を想定した製品となっています。

当社では、こうした技術的特徴と社内検証の結果を踏まえ、同アンテナを今後のドライブバイ方式の基本構成として採用し、同社と連携して実フィールドでの通信条件の最適化を進めることとしました。

同アンテナの技術詳細については、Braveridge の発表をご参照ください。

Braveridge 「特許取得技術を使用した 金属面に貼り付け可能な『2.4GHz 超薄型アンテナ』を発表」

<https://www.braveridge.com/news/archives/111>

#### ■Braveridge との技術連携と今後の検証

今後は、Braveridge と連携し、実際のインフラ環境におけるドライブバイ方式の技術検証を進めます。

主な検証項目として、マンホール等へのアンテナ設置条件、車両走行時の通信距離・接続時間・通信安定性、限られた通信時間内で取得可能なデータ量などを想定しています。

特に、車両が対象設備付近を通過する短い時間で、インフラ監視に必要なデータを安定して取得できる通信方式の確立を目指します。

## ■今後の展開

当社は、走行車両によるデータ収集とクラウド上での AI 解析を組み合わせ、異常の早期発見や予防保全につながる効率的なインフラ監視の実現を目指します。

今後、複数の実フィールドで通信性能や運用性を検証し、ドライブバイ方式の実用化と、上水道・下水道をはじめとする社会インフラ分野への展開を推進してまいります。

## 【参考情報】

### ●株式会社 Braveridge について

株式会社 Braveridge は、無線通信技術を強みとし、RF モジュールから IoT デバイスの企画・開発・製造までを手掛ける企業です。また、通信 SIM、クラウド、アプリを含めた IoT サービスプラットフォームも展開しています。

会社名 株式会社 Braveridge

代表者 代表取締役社長 小橋 泰成

所在地 福岡県福岡市西区周船寺 3-27-2

設立日 2004 年 7 月

URL <https://www.braveridge.com/>

### ■H m c o m m株式会社について

代表取締役社長 CEO 三本 幸司

URL <https://hmcom.co.jp>

設立日 2012 年 7 月 24 日

所在地 東京都港区浜松町 2 - 1 0 - 6 PMO 浜松町Ⅲ 4 階

事業内容 人工知能 (AI) 音声処理技術を基盤とした要素技術の研究/開発およびソリューション/サービスの提供

### <本リリースに関するお問合せ>

報道関係者様：H m c o m m株式会社 IR 担当 hm\_ir@hmcom.co.jp

企業様：H m c o m m株式会社 営業統括部 sales\_team@hmcom.co.jp

TEL：03-6550-9830 FAX：03-6550-9831